

今、若者たちへ

次世代に贈るメッセージ

脳科学者
茂木 健一郎さん

サラリーマン社会で「イエスマン」といえば「上役などの言いなりになる人」(広辞苑)だが、20日公開の映画『イエスマン “YES” は人生のパスワード』では自分に降りかかるあらゆることにイエスと言い続けた男が主人公。その実話を基にした作品である。イエスという言葉は、人とその人生をどう変えるのか——。脳科学者の茂木健一郎さんに映画が発するメッセージを、若者向けに読み解いてもらった。

アメリカ楽天主義 生き方が前向きに

アメリカのコメディ映画も今回主演のジム・キャリーも以前から大好きで、彼が出演している作品だけでも十作は見ています。往年のステイブ・マーティンのように、アメリカを代表するアメリカ人という感じで安心感があります。特に顔の表情による演技は抜群。この作品でも十分に発揮していました。

脇役陣も個性的な俳優がそろい、舞台となったロサンゼルスも空気もよく伝わってきて楽しめました。実話がベースということが信じられないようなストーリーだけど、イギリス人の原作をアメリカ人が手掛けると、ここまでポジティブになるところも面白かったです。

それにしても、このご時世にこういう映画を作るアメリカは、なっていてきな国なんだろう。アメリカ流楽天主義の底力を感じます。脳の研究でも、笑顔でいると脳が楽観的になり、生き方が前向きになることが分かっています。アメリカ人がエレベーターに乗り合わせる知らない者同士でもほほ笑み合いますが、あれが前向きな姿勢につながっているんですね。

とにかく行動することが大事 それによって人生が開けていく

この映画では「イエス」という言葉が必ず行動に結びつき、そこからいろいろな悲喜劇が生まれます。幸運に偶然出合う能力や幸運を呼び込む能力をセレンディピティーといいます。セレンディピティーを高める三つの要素がまさに「行動」「気づき」「受容」です。まず行動し、気づいて、これを受け入れることで幸運に近づけるのです。

この中で意外にいちばん難しいのが、最初に行動を起こすこと。世の中で「私はなかなか幸運に出合えません」と言っている人は、行動していない人が多い。そういう人は最初に「イエス」と言ってしまうわいかぎり行動も人生も変わりつこない、この映画はその訴えているように感じました。

では、人が行動を起こすにはどうすればいいか——。要は、考えないことです。自分で考えて問題を解くというアプローチの最大の欠点は、そこに他人や世間がないことです。行動することには考えることよりも必ず多くの要素を含んでいて、考えているだけでは解決しないような問題が行動すると解決したり、そもそも問題でなくなったりします。

だから、行動することに理由は要りません。世の中には、何か理由がないと行動してはいけないと

思っている人が多いですが、理由はあとから分かることなんです。若い人からいろいろな相談を受けます。大抵は迷ったり悩んだりしているだけで、何もやってない。例えば、自分のやりたいことが分からないという。でも、ただ考えていても絶対に分かりません。世の中を動き回っているうちに、あれこれだっただけで見つかるわけでしょう。とにかく行動することが大事。それによって人生が開けていくことを、多くの人に経験してほしい。特に若い時は失敗していいんだから、やってダメだったら戻ればいい。失敗自体が一つの経験になるんです。

異文化に飛び込み 人間の幅を広げる

今回ジム・キャリーが演じた主人公の初めの姿は、今の日本の若者に共通するところがあります。でも、たとえ小さな生活習慣でも、それを変えることで脳は変わり、自分と自分の人生を変えられます。すべてにイエスと言う必要はないから、とりあえず「一日イエス」を実践してみようか(笑い)。

イエスという言葉が発するには自信が必要です。でも、その自信に根拠は要りません。根拠のない自信を持って行動すればいいんです。僕自身もそうしてきました。

人生で重要な決断をするのに一、二秒しか考えてこなかったし、常に目の前のことを一生懸命やり、ひたすら全力で走ってきました。その結果、以前、自分が想像していたのと、今は全く違った方向にきていますから、これからもそうなるでしょう。そう思うことで、ワクワクする気持ちが生まれ、脳が本気になることもあります。

日本という国は、制度設計を変えるなどして直す必要があります。このままではどんどん落ち込んでしまうという実感がありません。若い人たちは島国・日本の社会・文化の均質性に安住してないで、外国の異文化に飛び込んでいろいろな刺激を受け、人間の幅も広げていってほしい。



もぎ・けんいちろう 1985年東京大学理学部卒、87年同法学部卒、92年同大学院理学系研究科物理学専攻博士課程修了。理化学研究所、ケンブリッジ大学を経て、98年ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー。東京工業大学大学院連携教授のほか多くの大学で講師も務める

広告

企画・制作
日本経済新聞社クロスメディア営業局